



会報
第4号

昭和59年7月27日発行
発行所
福井商工会議所青年部会
発行責任者
淡島洋

福井県商工会議所書年部連合会

結成される

鯖江商工会議所に於て設立総会



福井県商工会議所青年部連合会の設立総会には、各地区から五人の代議員が出席。初年度の事業として、情報・資料の交換、交流の促進、交歓スポーツ大会の実施等を決めた。総会には福井県商工会議所連合会より、福井商工会議所の品川一雄副会頭、地元鯖江より吉田三郎副会頭と齊藤正純専務理事、全国商工会議所青年部連合会より竹中勝治代表幹事が出席し

それぞれ祝辞を述べられた。又初代会長には淡島洋福井商工會議所青年部会長が就任、副会长には武生より齊藤輝男氏、鯖江より谷内文男氏が選出された。その他役員は以下の通り、理事年部が交流を深め合い、地域経済の発展に寄与しようという目的で設立された。鯖江商工会館で行われた。

隆、岩谷雄弘(武生)西村忠憲、平

等忠彦(鯖江)和田新二郎、坂賢治(勝山)瓜生憲一、河原継男(敦賀)監事・反保崇(勝山)高栄和雄(敦賀)顧問・清水慶造(福井)。総会終了後、参加者は鯖江眼鏡会館を見学、その後一般参加者も混じえ、聴琴閣に於いて会員大会を開催した。大会には福井県より宇野商工労働部次長、鯖江市より熊野収入役が出席。祝辞を述べられた。その後記念講演には、吉田鯖江商工会議所副会頭が、「眼鏡業界の現状」と題し、鯖江市において眼鏡産業が発展した経過等について講演された。

その後各地区青年部より出席した約一三〇人のメンバーによる懇親会が開催され会員相互の親睦が図られ、青年部が未設置の大野、小浜の両会議所にも、今後設置を働きかけていくことで合意した。

その後各地区青年部より出席した約一三〇人のメンバーによる懇親会が開催され会員相互の親睦が図られ、青年部が未設置の大野、小浜の両会議所にも、今後設置を働きかけていくことで合意した。

商工あれこれ

ふくい商工業の源流

幕末の安政六年(一八五九)に福井城下に物産総会所が設立された。

総会所は、商人を元締にした組織を持ち、殖産事業の拠点となつて生糸や織物など福井の物産の発展を促した。また、福井藩外に物産流通のルートを開き、生糸輸出の道まで開いた。幕末に誕生した物産総会所は、明治以降に息づく福井の商工業にとって、一つの源流になつたともいわれる。

物産総会所の立役者は、福井藩士の三岡石五郎(のちの由利公正)である。当時の福井藩の收支みると一八万両の収入に対し、参勤交代費などを加えて支出の方は二〇万両で、二万両の赤字だった。この藩の窮状を打開するため、三岡は領内の実地調査や長崎の出張調査を行って、物産振興策を提言した。三岡の案は①貿易資金は藩債金五万両を以て充当する②資金は藩の人口三〇万人のうち二〇万に貸与し、一人に金一分あての予算を立てる③藩債は藩札として発行する④貸付のため新たに総会所を起こすといったものであつた。

企業訪問

井上商事株式会社

代表取締役



井上 彪

【会社概要】

本社 福井市日の出丁目一一六

会社設立 昭和二年六月

他営業所・工場数ヶ所

創業 昭和四年五月一日

資本金 二千万円

役員 会長 井上 彪

従業員 四〇名

営業品目 石油、セメント、生コンクリート、アルミニウム、建材、ガス

は四〇名です。従業員の平均年令は二十九才と非常に若く、各部門順調に伸長しています。従業員にわかれで責任を分担し、活力を絶えず、社員に持ち続けさせ、組織も社員とトップとの間が非常に短短く、働きがいがあり、顧客のニーズに即刻対応しやすい。社員の能力開発と自社独自の技術やソフトの蓄積に注力している。営業所は東京・大阪・滋賀・敦賀。春江にアルミ加工工場を持ち、最新のOA機器を最大限に利用して、迅速な対応と、即時納入態勢をモットーとしている。

関連会社として、井上石油(ガソリンスタンド)福井アサノコンクリート(生コンクリート製造)日明産業(運送業)がある。

山は優しい。体力があつて速く登つて来る人にも、時間を掛けてゆっくり登つてくる人にも同じ様に接してくれる。忙しい人、都合の悪い人には、その機会が来るまで何年も、何十年でも待っていて呉れる。だから過密なスケジュールや、悪天候を突いてまで、無理な山登りなどする必要はない。

山登りは誰れでも出来る。自分が簡単なことだと分り、誰れもが自分も案外やれたと感じる。先づ出掛け見て欲しい。「自然」と風、厳しい自然の中でも可憐に咲く高山植物。日常生活とは全く掛け離れた世界がそこにはある。山頂辺りでお茶を沸して一息つく時の充実感は何とも言えない。登る時の苦しみなど吹き飛んでしまう。山へ来て良かったとしみじみ思う。

▼アユ釣りのシーズンです。九頭竜川、足羽川、日野川はじめ県内はアユ釣り天国。ただ、日曜日は降雨の影響で、なかなかアユ釣りのチャンスはめぐまれません。ウイークデーは世間の目を意識してしまいます。世相の目を意識するようでは本当の道楽ではないのでしょうか。この紙面も世相を意識せず伸び伸び展開したい。(小鶴)

編集後記

「山登り」

荒木 伸男

山登りは誰れでも出来る。自分がベースで登れば良い。乗り物の力を借りずに一日八時間歩くこと

のペースで登れば良い。乗り物の日本海の荒波に育くまれた味…。

自分も案外やれたと感じる。先づ出掛け見て欲しい。「自然」と大きさ、その中に自分が居られるこの幸せを感じる筈だ。

お贈りください。

大切な方に――

日本海の荒波に育くまれた味…。

